

令和6年度 学校評価報告書

春日井市立押沢台小学校
学校評価委員会

1. はじめに

教職員による「自己評価」は、学校評価の基本となるものである〔1〕。教職員が「自己評価」を行うとき、これに関連する事項について、アンケートを行うことがある。本報告書では、このアンケートを「自己評価用アンケート」とよぶ。一方、児童や保護者等の意見や要望を把握するためのアンケートは、「外部アンケート」とよばれる。「外部アンケート」の結果は、「自己評価」を行うときに参考にされる。

本年度、教職員向け「自己評価用アンケート」と児童や保護者等向け「外部アンケート」とを合体した「学校評価アンケート」を作成した。このアンケートを教職員、児童、保護者等に対して行った。

本報告書は、このアンケートの結果について述べる。

2. 評価項目の設計

2.1 2024年度 評価項目

表1 2024年度 学校評価アンケート評価項目一覧

注 色がついている項目は、自己評価である。

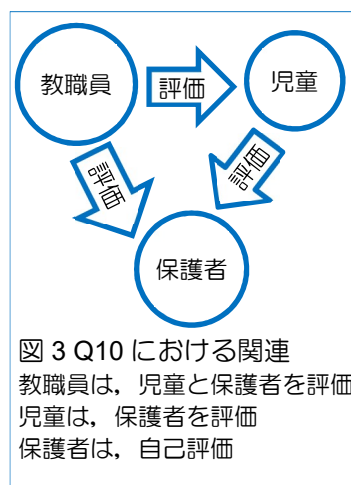
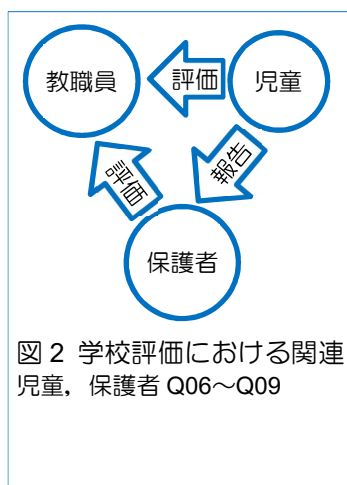
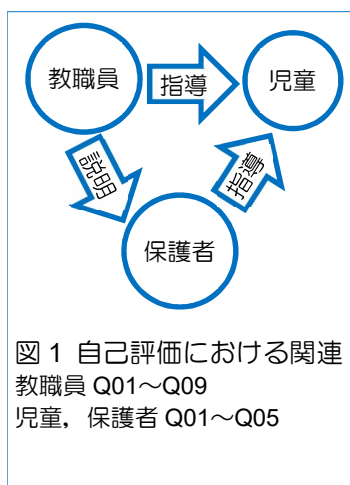
	教職員	児童	保護者・見守り隊
Q01.	学校は、＜本校の校訓＞や＜今年度の目標＞に沿って教育活動を進めていますか。	うえにも かきました。「もくひょう」を していますか。	あなたは、＜本校の校訓＞と＜今年度の目標＞をご存じですか。
Q02.	あなたは、児童にすすんであいさつをしていますか。	じぶんから すすんで あいさつを していますか。	あなたは、お子さんにすすんであいさつをしていますか。
Q03.	あなたは、児童に自分の考えを優しい言葉で伝えていますか。	じぶんの かんがえを ほかの 人に つたえていますか。	あなたは、お子さんに自分の考えをていねいに伝えていますか。
Q04.	あなたは、児童の話をよく聞いていますか。	人のはなしを しっかり きいて いますか。	あなたは、お子さんの話をよく聞いていますか。
Q05.	あなたは、児童を大切にしていますか。	じぶんと まわりの人を たいせつに していますか。	あなたは、お子さんと周囲の人を大切にしていますか。
Q06.	あなたは、児童が学校生活を楽しんでいると思いますか。	がっこうは、たのしいですか。	お子さんは、「学校は楽しい」と言っていますか。
Q07.	あなたは、教材研究や授業研究に意欲的に取り組み、分かる授業をしていますか。	がっこうでの べんきょうは わかりますか。	お子さんは、学校での勉強を理解できていますか。
Q08.	あなたは、児童一人一人のよさを生かす学級・学校づくりに努めていますか。	せんせいは がんばったところを ほめてくれますか。	お子さんは、頑張ると、先生がほめてくれると言っていますか。
Q09.	あなたは、児童の不安や悩みを理解し、適切に相談に応じていますか。	せんせいに おはなし（そうだん しつもん）しやすいですか。	お子さんは、困ったとき、先生に相談していますか。
Q10.	学級・学校からの連絡は、教員・児童・保護者の間で共有されていますか。	おうちの人に おはなし（そうだん）しやすいですか。	お子さんが困ったとき、あなたは相談にのっていますか。
Q11.	その他（本校の教育活動へのご意見があればお知らせください）	そのほか（なにか つたえたいことが ある人は おしえてください）	その他（本校の教育活動へのご意見がありましたらお知らせください）

2.2 評価者と被評価者

表2 2024年度 学校評価アンケート評価項目の目的一覧

注 色がついている項目は、自己評価である。

項目	教職員	児童	保護者・見守り隊
Q01.目標	今年度の〈校訓・目標〉の達成度に関する自己評価（達成度）（図1）	今年度の〈校訓・目標〉の達成度に関する自己評価（達成度）（図1）	今年度の〈校訓・目標〉の達成度に関する自己評価（達成度）（図1）
Q02.あいさつ			
Q03.自分の考え			
Q04.よく聞く			
Q05.人を大切			
Q06.学校は楽しい	学校、学習などに関する、重要事項について自己評価（役務提供度）（図1）	学校、学習などに関する、重要事項について学校を評価（役務提供度）（図2）	学校、学習などに関する、重要事項について学校を評価（理解度）（図2）
Q07.勉強を理解			
Q08.先生がほめる			
Q09.先生に相談			
Q10.家族に相談	教職員による児童・保護者を評価（図3）	児童による保護者を評価（図3）	保護者による自己評価（図3）
Q11.自由記述	自由記述	自由記述	自由記述



3. アンケート

3.1 アンケートの方法

アンケート用 Web ページは、Google Form を利用して作成した。

3.2 アンケートの回答に対する処理

アンケートの回答は、最後の自由記述を除き、肯定的回答から否定的回答 {よくできた、できた、少しできなかった、全くできなかった} の4つから1つを選ぶ択一式とした。項目によっては、回答に「不明」を追加できる。そのとき、選択肢は5となる。

回答は、語句で表わされている。そのままでは、処理に不便なので、数値化する。肯定的回答から否定的回答に対して、それぞれ、{4, 3, 2, 1} で数値化した。また、「不明」は、{0} とした。

3.3 数値化された回答

数値化された回答は、集計される。平均点が算出される。

項目の点数をXとしたとき、その評価を以下のようにA, B, C, Dのランクに分けた（表3）。

本報告書では、 $X \geq 3.0$ 、言い換えるとランクB以上を目標とした。

表3 点数とランク

注 A, B, Cが合格で, Dは, 不合格である。

ランク	A	B	C	D
点数 X	$X \geq 3.5$	$3.5 > X \geq 3.0$	$3.0 > X \geq 2.5$	$2.5 > X$

さらに細かく分けると次のようになる。

ランク	A	B+	B	C+	C	D+	D
点数 X	$X \geq 3.5$	$3.5 > X \geq 3.25$	$3.25 > X \geq 3.0$	$3.0 > X \geq 2.75$	$2.75 > X \geq 2.5$	$2.5 > X \geq 2.25$	$2.25 > X$

4. アンケートの結果

4.1 教職員の自己評価

児童や保護者を対象とした外部アンケートによる評価をまとめつつ、教職員の自己評価を行う（表4）。

アンケートの結果を見るにあたって、留意事項を次に述べる。

（1）児童の自己評価

児童の自己評価は、次の3つの結果からなる（図1）。

- 児童が頑張った結果
- 教職員が頑張って指導した結果
- 教職員が保護者に説明し、次に、保護者が頑張って児童を指導した結果（お手本を示した結果）

児童の自己評価の結果は、このように教職員や保護者が熱心に指導した成果を映している。評価は、その熱心さを映す鏡でもある。

（2）評価

アンケートでは相手を喜ばせる心理が働き、実際よりも良い評価を得られる場合がある。

（3）児童への伝達

今年度は、児童への伝達が確実となるように、伝達事項を「教職員から児童へ」と「保護者から児童へ」という2重の経路で児童へ伝わるようにした（図1）。

表 4 2024 年度 学校評価アンケート（教職員の自己評価）

注 「Q01.」から「Q05.」は、児童のコミュニケーション能力の伸長に関する項目である。

項目	教職員	まとめと来年度の方針	児童	保護者
Q01.学校は、＜本校の校訓＞や＜今年度の目標＞に沿って教育活動を進めていますか。	B+	＜今年度の目標＞を知らない保護者が多い。今後は「目標の一つは、児童のコミュニケーション能力の向上である」という点を、広く説明する。	B+	C
Q02.あなたは、児童にすすんであいさつをしていますか。	B+	あいさつが定着しつつある。しかし、こちらから挨拶をしても返せない児童が時折見られる。今後も、大人から挨拶を続ける。	B+	B+
Q03.あなたは、児童に自分の考えを優しい言葉で伝えていますか。	B+	教職員や保護者は努力しているものの、児童の日々の実践までには、結びついていないようである。学級ごとに評価を精査し、対策を考える。今後、自分の考えを論理的に簡潔にまとめ、発表できるように指導する。	B	B+
Q04.あなたは、児童の話をよく聞いていますか。	B	児童は話をよく聞いているが、教職員や保護者はやや聞き取り不足の傾向が見られる。今後は、教職員と保護者が時間的な余裕を持ち、児童と丁寧に向き合えるよう努める。	B+	B
Q05.あなたは、児童を大切にしていますか。	B+	教職員や保護者は、児童に優しく接している。児童は、さらに優しく接している。今後も、子どもの人権を尊重して、優しく接することを徹底したい。	A	B+
Q06.あなたは、児童が学校生活を楽しんでいると思いますか。	B	教職員と保護者は学校を楽しい場所だと感じており、児童はさらに楽しんでいるようだ。ただし、この結果は児童が相手を喜ばせようとする心理による可能性も考慮する必要がある。今後も、子どもの安全を第一に考え、楽しい学校生活を支えたい。	B+	B
Q07.あなたは、教材研究や授業研究に意欲的に取り組み、分かる授業をしていますか。	B	児童の自由記述に、「算数が最近楽しくなってきた」「授業についていけず、指名されると困る」という意見があった。これらの意見は、保護者が学校に対して特に注意深く見ている点だ。今後も、教職員と保護者が時間的な余裕を持てるよう、働き方改革を進めたい。	B+	C+
Q08.あなたは、児童一人一人のよさを生かす学級・学校づくりに努めていますか。	B	教職員は努力を重ね、児童も概ね満足している。保護者からは、「丁寧な指導に感謝する」という声と、「一部の児童への偏ったひいきが見られる」という声が寄せられた。保護者は、公平な指導を強く望んでいる。今後も、偏りのない、より良い学級づくりに努める。	B+	B
Q09.あなたは、児童の不安や悩みを理解し、適切に相談に応じていますか。	B	保護者から、「担任の先生には相談しやすい」という声と、「先生が忙しそうで相談しづらい」「相談しても途中で終わってしまうことがある」という声が寄せられた。保護者は、先生方に気軽に相談できる環境を強く望んでいる。今後は、教職員が時間的な余裕を持ち、保護者の相談に丁寧に対応できるよう努める。	B	C
Q10.学級・学校からの連絡は、教員・児童・保護者の間で共有されていますか。	A	先生から児童、保護者への連絡、先生から保護者、児童への連絡は円滑に行われている。今後は、児童と保護者の関係も良好であるという認識のもと、学校も協力して良好な関係を維持していく。	B+	B+

4.2 t検定による考察

アンケートの結果をt検定で考察する。

第1回目の平均点と第2回目の平均点についてt検定を行った(表5)。

表5 2024年度 学校評価アンケート(t検定)

注 t検定値<0.05の場合、水色がついている。

項目	t検定		変化率(%)	
	.児童	.保護者	.児童	.保護者
Q00.総合				
Q01.目標				
Q02.あいさつ	0.529	0.001	1.47	7.89
Q03.自分の考え	0.862	0.00036	-1.61	-9.91
Q04.よく聞く	0.376	0.00003	-1.17	9.6
Q05.人を大切	0.265	0.00014	0.56	13.59
Q06.学校は楽しい	0.202	0.002	-2.91	-6.08
Q07.勉強を理解	0.002	0.519	-6.71	-2.99
Q08.先生がほめる	0.922	0.024	0.3	6.04
Q09.先生に相談	0.006	0.034	-7.74	-5.47
Q10.家族に相談	0.485	0.073	-2.92	3.72

注 変化率 = (第2回目の平均点 - 第1回目の平均点) * 100 / 第1回目の平均点

t検定値 ≥ 0.05 なら第1回目の平均点と第2回目の平均点の間に有意差はない。

有意差があるとき、変化率を見ると第1回目の点数に比べ第2回目の点数が高くなったのか、下がったかが分かる。

t検定の結果と変化率があれば、以下のように問題点が明らかとなる。

(1) 児童

「Q07.」、「Q09.」の項目から、学期が進むにつれ、児童は勉強が分からず、先生に相談できないと答えている。

(2) 保護者

「Q03.」の項目から、保護者の自覚が低下し、児童にもその影響がでている。しかし、児童に有意差が認められるほどの影響はない。

「Q06.」、「Q09.」の項目から、学期が進むにつれ、児童は学校が楽しくない、先生に相談できないと保護者は見ている。

5. あとがき

学校評価の資料として、教職員に対して行った自己評価用アンケートの結果について述べた。また、児童や保護者等に対して行ったアンケートの結果について述べた。

以下、明らかになった問題点を述べる。

教員、児童、保護者へのアンケートの結果から、特に「Q03.」、「Q07.」、「Q09.」の項目に問題があることが分かった。以下のような解決法を考える。

- (1) 「Q03.自分の考え」を論理的に簡潔にまとめ、発表できるようにする。
- (2) 「Q07.勉強を理解」できるように、先生や家庭に時間的余裕が持てるようにする。
- (3) 「Q09.先生に相談」できるように、先生に時間的余裕が持てるようにする。

以上から、以下のように結論付ける。

- (1) に関する教職員の研鑽が必要である。
- (2), (3) から、学校は、「教職員が時間的余裕を持てるようにする。」ことが重要である。

つぎに、明らかになった、改良や検討すべき事項について述べる。

- Google Form には、多重投稿が容易にできるという重大な問題がある。
- アンケート作成では、評価項目に関する、今後もさらなる検討が必要である。

このアンケートの評価項目は、押沢台小学校で従来から行われてきた学校評価アンケートを引き継いでいる。今後の課題は、これらを整理し、体系化することである。

参考文献

- [1] 文部科学省. “学校評価ガイドライン〔平成 28 年改訂〕” .
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/___icsFiles/afieldfile/2019/01/30/1323515_021.pdf, (参照 2024-02-29) .